

## はじめに

近年の知的障がい者を取り巻く環境は、本人や養護者（家族）などの高齢化が大きな問題となっています。

滋賀県手をつなぐ育成会が県内4カ所で実施した「地域育成会交流懇談会」においても、全ての懇談会で、本人や家族の高齢化が進む中、本人の将来や健康面に関する不安に対する意見が多く出されていました。

こうした中、滋賀県手をつなぐ育成会の専門委員会として設置された「子育て家庭・高齢期家庭への支援委員会」において、高齢期家庭に対する相談事業のあり方をはじめ、日頃の生活面における不安の解消に向けた取り組みを検討するため、今回、「高齢家庭への支援のあり方を検討するための状況調査（アンケート調査）」を実施しました。

アンケート調査にご協力いただいた皆様からは、各項目に対する回答だけでなく、自由記述にも多くのご意見などをご記入いただき、このことから、高齢化の進展に係る不安に対する皆様の強い思いを感じ取ることができました。

報告書の作成に当たっては、委員会において、分析と議論を行いました。限られた時間の中での対応となり、十分なものとは言えないかも知れません。

一方、出来る限り回答者の皆さんの思いを伝えたいと思い、自由記述は全て記載させていただきました。

今後は、今回のアンケート調査結果を踏まえ、少しでも皆様の不安の解消につながる取り組みについて、引き続き委員会を中心に検討を進めて参ります。

最後になりましたが、今回のアンケート調査は、年末の慌ただしい時期になり、また回答期限も短い中での調査でしたが、調査票の配付や回答に当たり、各支部の代表者の方々をはじめ、多くの皆様のご協力を得て実施できました。

ここに改めて感謝を申し上げます。

平成29年3月

公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会  
子育て家庭・高齢期家庭への支援委員会

委員長	高橋	健一
委員	高畑	きぬ江
	浅田	邦保
	大谷	晃昭
	大林	與喜彦
	真野	美佐子
	近藤	喜造
	崎山	美智子

# 「高齢家庭への支援のあり方を検討するための状況調査」について

## 1. アンケート調査の趣旨・目的

本人や養護者の皆さんに対して、健康状態や生活面に関する状況をお聞かせいただき、高齢期家庭への支援のあり方や、みなさんの抱えておられる生活面の不安などの解消につながる取り組みを検討するために「高齢家庭への支援のあり方を検討するための状況調査」を実施しました。

## 2. 対象者

65歳以上の本人および養護者（65歳に近い年齢の一部の方々も対象）

## 3. アンケート調査の実施期間

平成28年12月1日～12月末

## 4. アンケート調査結果の概要

別紙のとおり

## 5. アンケート調査結果

別紙のとおり

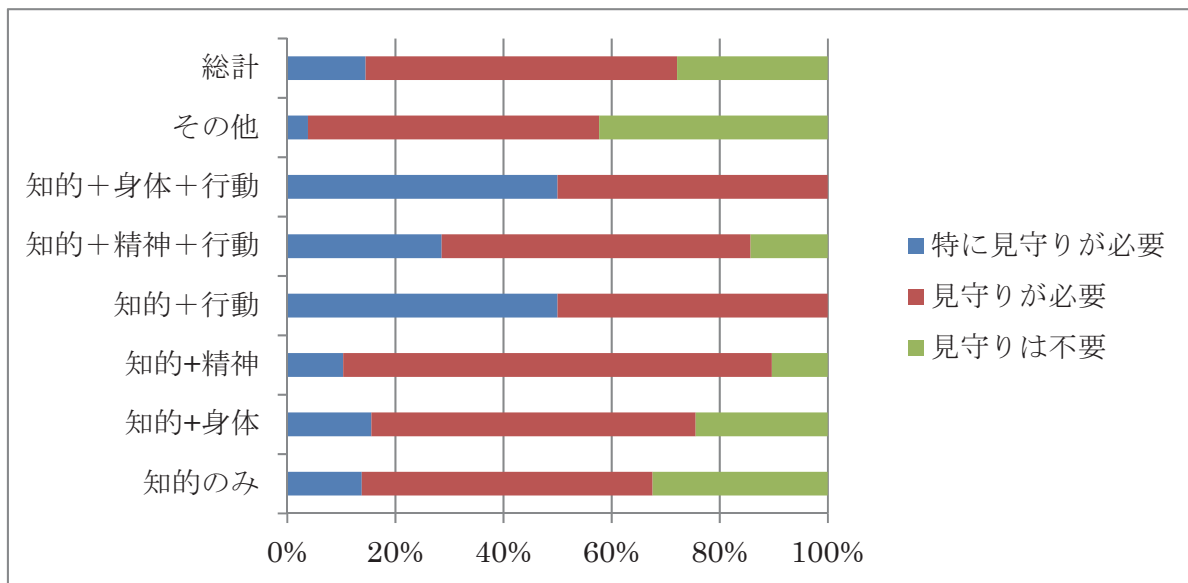
## アンケート調査結果の概要

### 第1節 アンケート調査に回答した家庭の状況

表1 本人の障がい種別、見守りの必要度

	特に見守りが必要	見守りが必要	見守りは不要	総計
知的のみ	20	78	47	145
知的+身体	7	27	11	45
知的+精神	3	23	3	29
知的+行動	4	4	0	8
知的+精神+行動	2	4	1	7
知的+身体+行動	1	1	0	2
不詳	1	14	11	26
総計	38	151	73	262

図1 本人の障がい種別、見守りの必要な者の割合



今回のアンケートは、各市町の手をつなぐ育成会の協力を得て、知的障がいのある人を中心に 546 名に依頼し、282 名からの回答があった。このうち、本人の障がい種別について回答のあった 262 名をみると、「知的障がいのみ」の本人が半数以上の 145 名と最も多く、次いで「知的障がいと身体障がいの重複障がい」の本人が 45 人（17%）、「知的障がいと精神障がいの重複障がい」の本人が 29 人（11%）などとなっている。

また、本人の障がい種別ごとに、見守りの必要な者の割合をみると、行動障がいを伴うと「特に見守りが必要」の割合が高くなる傾向にある。一方、「知的障がいと精神障がいが重複している本人」については、「見守りは不要」な者の割合は少なくなっている。

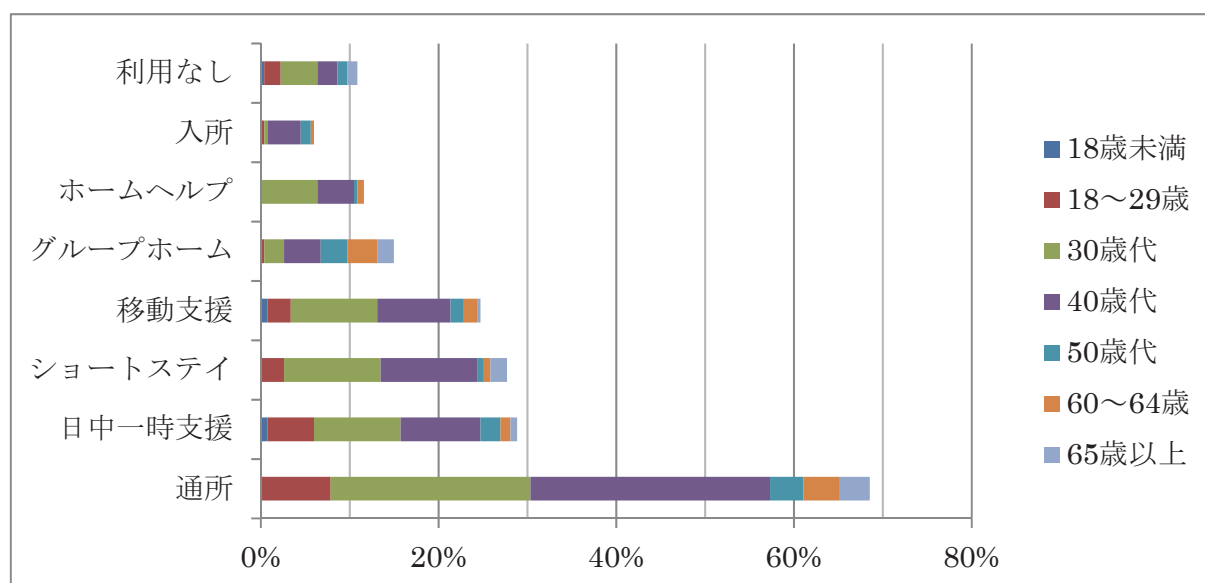
「特に見守りが必要」の中にどの程度含まれるか分からないが、強度行動障がいの人の場合、養護者のみの見守り・支援には限界があることから、本人とその家族が孤立化しないよう、強度行動障がいに対応できる支援員の育成や社会資源の開発が求められる。

## アンケート調査結果の概要

表2 本人の年齢別、本人が利用している福祉サービス（複数回答可・主なもの）

	通所	日中一時支援	ショートステイ	移動支援	グループホーム	ホームヘルプ	入所	利用なし	回答人数
18歳未満	0	2	0	2	0	0	0	1	4
18～29歳	21	14	7	7	1	0	1	5	28
30歳代	60	26	29	26	6	17	1	11	81
40歳代	72	24	29	22	11	11	10	6	95
50歳代	10	6	2	4	8	1	3	3	21
60～64歳	11	3	2	4	9	2	1	0	19
65歳以上	9	2	5	1	5	0	0	3	18
不明	1	0	1	0	0	0	0	0	1
計	184	77	75	66	40	31	16	29	267

図2 本人が利用している主な福祉サービス別の利用割合（複数回答可）



今回のアンケート調査に回答があった282名のうち、本人の年齢について回答のあった267名をみると、本人の年齢は「40歳代」が最も多く95名、次いで「30歳代」81名、「18～29歳」28名などとなっている。

また、本人の受けている福祉サービス（複数回答可）をみると、267名に対し、日中系のサービスでは、7割近くが「通所」し、3割弱が「日中一時支援」を利用している。また、居住系サービスでは、「グループホーム」が15%、「入所」が6%となっている。一方、福祉サービスの「利用なし」の者も1割強存在する。

入所は、「40歳代」以上が16人中あわせて14名となっているが、国の地域移行政策により入所施設の新設ができないことから空きがなく、若い人の利用が難しくなっていることが推察される。

## アンケート調査結果の概要

表3-1 本人に対する養護者の続柄

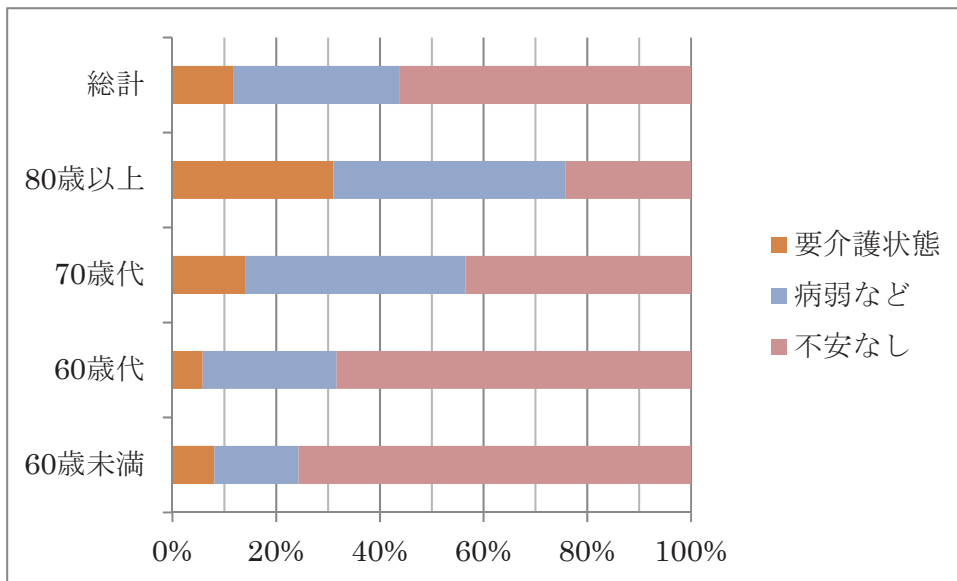
	父母	兄弟姉妹	その他の親族	親族以外	不詳	総計
回答人数	250	26	3	1	2	282

本アンケート調査に回答のあった 282 名について、本人に対する養護者の続柄をみると、「父母」が 250 名で全体の 9 割近く、次いで「兄弟姉妹」が 26 名で約 1 割となっている。

表3-2 養護者の年齢別、健康状態（複数回答可）

	要介護状態	病弱など	不安なし	延べ計	回答人数
60歳未満	3	6	28	37	36
60歳代	7	31	82	120	118
70歳代	13	39	40	92	90
80歳以上	9	13	7	29	27
不詳	1	0	0	1	1
総計	33	89	157	279	272

図3 養護者の年齢別、健康状態の割合（複数回答7名）



養護者の健康状態については、介護保険の「要介護状態」（障害福祉サービスの要支援状態にある者を含む）にある養護者が 33 名で約 1 割、要介護状態にはないものの「病弱など」の健康の不安を抱える養護者が 89 名で約 3 割、健康に「不安なし」の養護者が約 5 割強となっている。

これを年齢別にみると、健康に不安を抱える者（「要介護状態」＋「病弱など」）は、「60歳未満」では約 25%に過ぎないのに対し、年齢が上がるにつれて健康不安を抱える割合が増加し、「80歳以上」では約 75%と 4 人中 3 人が不安を抱えていることになる。

「親亡き後は親あるうちに」といったことが言われるが、養護者自身の健康状態も考慮に入れると「親亡き後は親の若いうちに」取り組み始める必要があると考えられる。

## アンケート調査結果の概要

表4 養護者の年齢別相談相手(複数回答可・だれに相談しているか+だれに相談したいか)

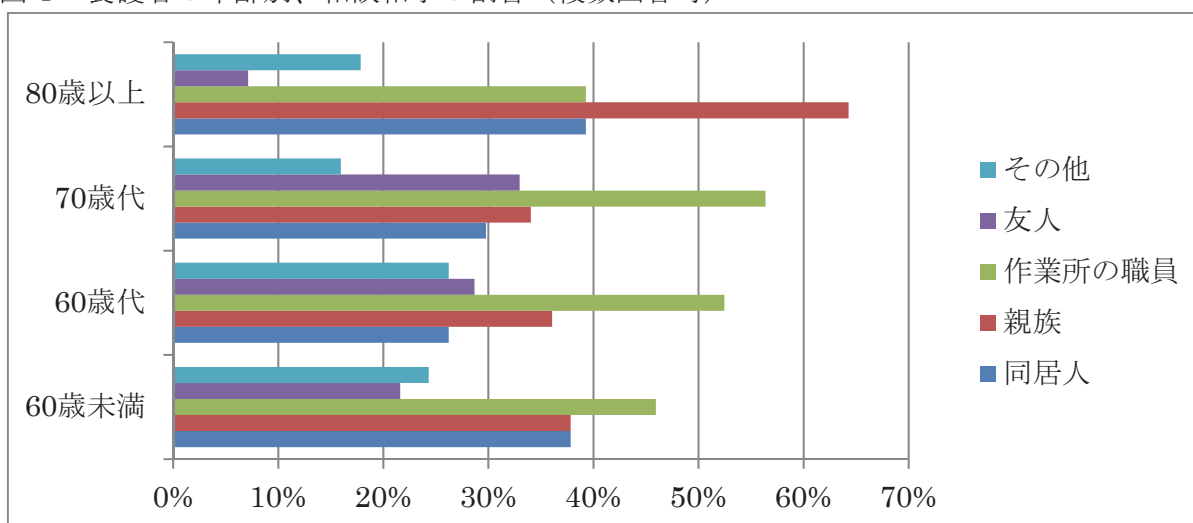
	同居人	親族	作業所の職員	友人	その他	計	回答人数
60歳未満	14	14	17	8	9	62	37
60歳代	32	44	64	35	32	207	122
70歳代	28	32	53	31	15	159	94
80歳以上	11	18	11	2	5	47	28
不詳	0	0	1	0	1	2	1
計	85	108	146	76	62	477	282

「その他」の内訳

←

同じ立場の保護者 2名、育成会の仲間 2名、相談員 3名、  
 医師 5名、行政 12名、相談機関 5名、  
 支援センター 3名、施設 5名、ホームの職員 2名  
 その他(専門家、後見人、弁護士、民生委員、政党员、関係者) 7名 ほか

図4 養護者の年齢別、相談相手の割合(複数回答可)



アンケート調査に回答のあった282名について、養護者の年齢をみると、「60歳代」が122名、「70歳代」が94名などとなっている。

相談相手としては、「作業所の職員」が146名で最も多い。これは、回答のあった人の中に「通所」の者が多かったこともあるが、日常的に本人の事をよく知っている職員への期待の表れであると考えられる。職員には、本人への支援のみならず、福祉制度や相談窓口の情報などにも精通し、養護者の相談にも対応できることが望まれる。

また、養護者の年齢別に相談相手を見ると、「80歳以上」では、「親族」の割合が突出して最も高くなり、他の年代と傾向が大きく異なる。これは、養護者自身の健康不安や「親亡き後」を親族に託さざるを得ない状況の表れではないかと推察される。

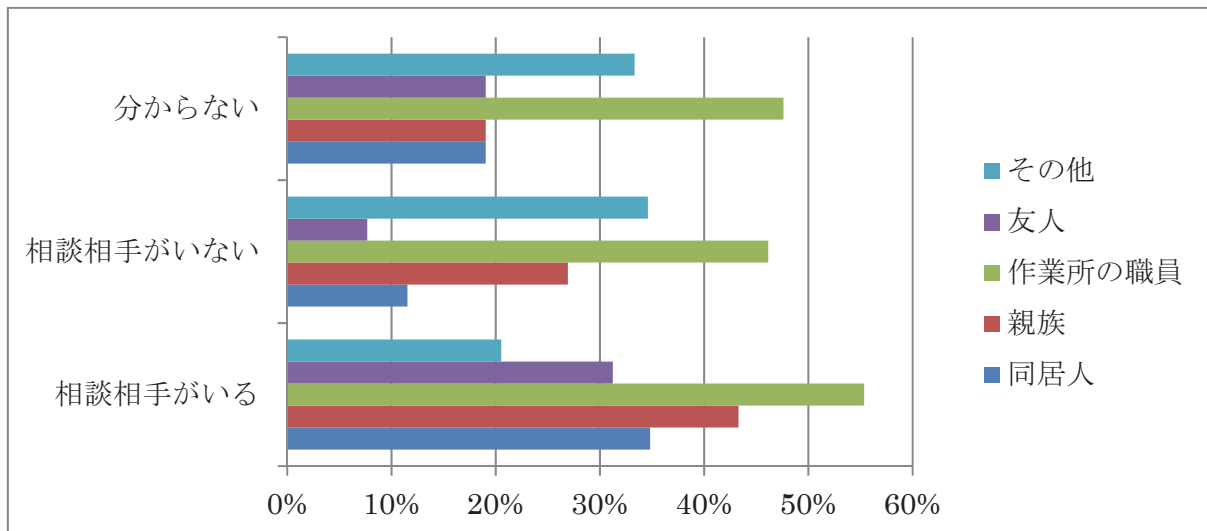
なお、相談相手として、「その他」を選んだ62名のうち、「保護者」(「育成会」・「相談員」を含む)と記入したのは7名で、同じ保護者の立場の者への期待は高くない。

## アンケート調査結果の概要

表5-1 養護者の相談相手の有無別、相談している相手・相談したい相手（複数回答可）

	同居人	親族	作業所の職員	友人	その他	計	回答人数
相談相手がいる	78	97	124	70	46	415	224
相談相手がない	3	7	12	2	9	33	26
分からない	4	4	10	4	7	29	21
計	85	108	146	76	62	477	271

図5 養護者の相談相手の有無別、相談している相手・相談したい相手の割合（複数回答可）



相談相手の有無について回答のあった271名のうち、「相談相手がいる」人は224名で養護者の8割にのぼる。

一方、平成26年に草津市が実施した「孤立化防止のためのアンケート」によると、養護者100名のうち、「相談相手がいる」のは70名で養護者の7割という結果であった。

これは、草津市が、孤立化に関して何らかの課題を抱えていると想定された世帯に悉皆でアンケートを実施したのに対し、今回のアンケートは育成会会員を中心に実施したことから、つながる意識の高い者の回答が多かったのではないかと推察される。

また、「相談相手がいる」人が相談している相手は、半数以上の人々が「作業所の職員」でも多いが、「同居人」と「親族」を合わせると「作業所の職員」を上回り、約7割を占める。

一方、「相談相手がない」人は、「同居人」や「友人」に相談したいと考えている人が極端に少なく、「親族」よりも「作業所の職員」や「その他」に相談したいと考えている。

これは、「同居人」に頼ることができない何らかの事情のあることが推察され、本人と関わりの深い関係者に相談したいと考えていることの表れと思われる。

表5-2 相談相手のいる人が相談相手を信頼しているか

	はい	いいえ	その他	計
この人なら頼れる、話せる人か	203	5	16	224

なお、「相談相手がいる」224名について、大半の203名が「頼れる、話せる」としている。信頼できる相談相手は、養護者の心の安定に重要な役割を果たすのではないかと推察される。

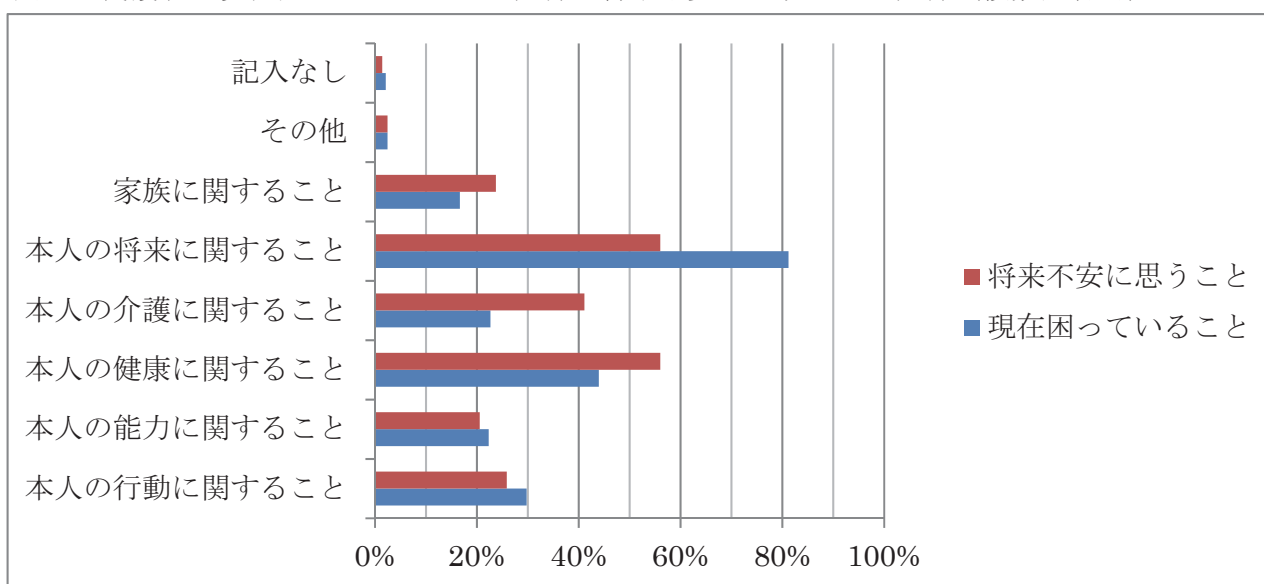
## アンケート調査結果の概要

### 第2節 養護者のねがい

表6 養護者が現在困っていること、将来不安に思うこと（複数回答可）

	本人の行動に関すること	本人の能力に関すること	本人の健康に関すること	本人の介護に関すること	本人の将来に関すること	家族に関すること	その他	記入なし	回答人数
現在困っていること	84	63	124	64	229	47	7	6	282
将来不安に思うこと	73	58	158	116	158	67	7	4	282

図6 養護者が現在困っていることの割合と将来不安に思うことの割合（複数回答可）



養護者が「現在困っていること」について尋ねたところ、アンケートに回答のあった 282 名のうち、8割の養護者（229名）が「本人の将来に関すること」に、4割の養護者（124名）が「本人の健康に関すること」に困り感を持っている。

一方、養護者が「将来不安に思うこと」について尋ねたところ、半数以上の養護者（158名）が「現在困っていること」と同様に「本人の将来に関すること」と「本人の健康に関すること」に不安を感じている。ついで、4割の養護者（116名）が「本人の介護に関すること」に不安を感じている。

また、「本人の健康に関すること」と「本人の介護に関すること」は、「現在困っていること」より「将来不安に思うこと」の回答が多かったことから、高齢化に伴って不安が増していくものと推察される。一方、「本人の将来に関すること」については、今から親亡き後のことに取り組みれば、将来の不安が軽減される期待の表れでないかと思われる。

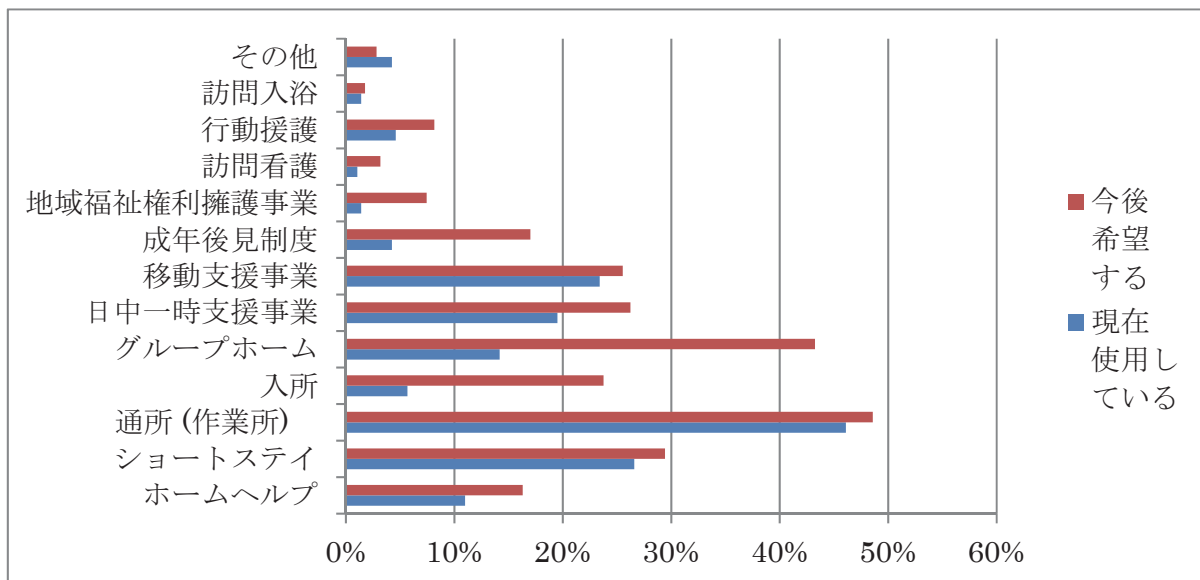


## アンケート調査結果の概要

表7 本人が現在使用しているサービス、今後希望するサービス（複数回答可）

	ホームヘルプ	ショートステイ	通所（作業所）	入所	グループホーム	日中一時支援事業	移動支援事業	成年後見制度	地域福祉権利擁護事業	訪問看護	行動援護	訪問入浴	その他	利用していない	記入なし	回答人数
現在使用している	31	75	130	16	40	55	66	12	4	3	13	4	12	29	15	282
今後希望する	46	83	137	67	122	74	72	48	21	9	23	5	8	-	33	282

図7 本人が現在使用しているサービスの割合、今後希望するサービスの割合（複数回答可）



本人について「今後希望する」サービスを尋ねたところ、回答のあった282名のうち、「通所（作業所）」が137名と最も多く、次いで、「グループホーム」が122名、「ショートステイ」が83名などとなっている。

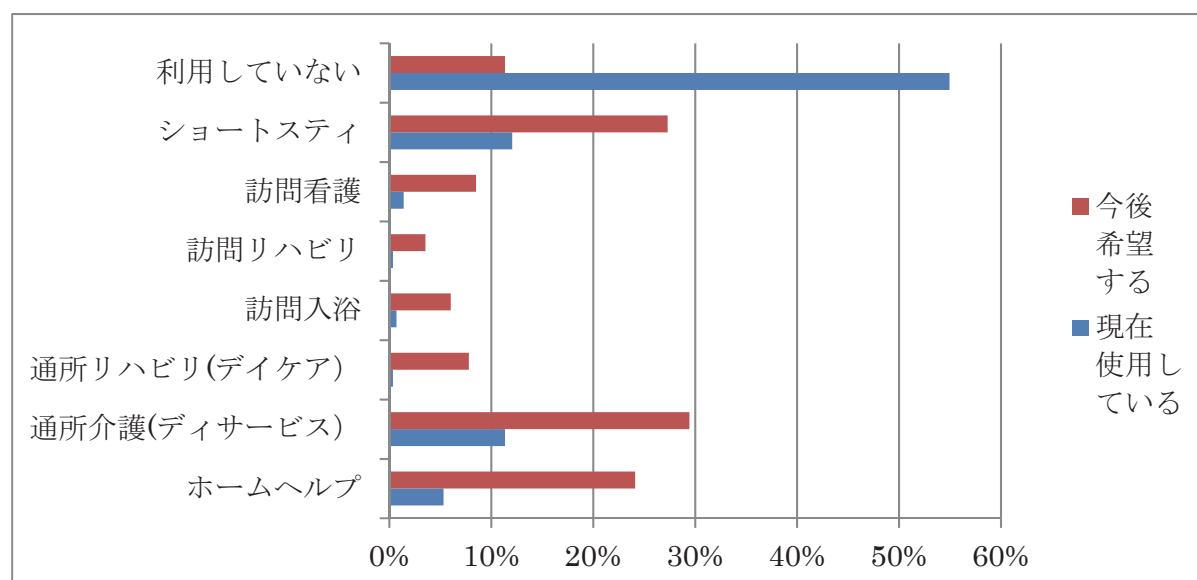
「現在使用している」サービスと比較すると、「入所」、「グループホーム」といった居住系サービスや、「成年後見制度」、「地域福祉権利擁護事業」といった本人の権利擁護制度について、「今後希望する」が大きく上回っていることがわかる。これらは、いずれも「親亡き後」の本人の生活を支える上で重要な役割を担うものであり、養護者の「将来の不安」を軽減するためにも、質・量ともに充実していく必要がある。

## アンケート調査結果の概要

表8 本人が現在使用している介護保険サービス、今後希望するサービス（複数回答可）

	ホームヘルプ	通所介護 (デイサービス)	通所リハビリ (デイケア)	訪問入浴	訪問リハビリ	訪問看護	ショートステイ	利用していない 利用しない	記入なし	回答人数
現在使用している	15	32	1	2	1	4	34	155	62	282
今後希望する	68	83	22	17	10	24	77	32	94	282

図8 本人が現在使用している介護保険サービスの割合、今後希望するサービスの割合（複数回答可）



本人について、「現在使用している介護保険サービス」を尋ねたところ、「利用していない」が155名と最も多く、次いで「ショートステイ」34名、「通所介護（デイサービス）」32名などとなっている。一方、「記入なし」が62名（22%）と5人に1人の割合で存在し、介護保険制度の情報が不足している養護者が少なくないものと推察される。

また、「今後希望する介護保険サービス」を尋ねたところ、「通所介護（デイサービス）」83名、次いで「ショートステイ」77名、「ホームヘルプ」68名などとなっている。一方、今後も「利用しない」という者も32%存在する。これは、現在使用している障がい福祉サービスを使い続けたいという希望の表れであると推察される。

しかし、改正された障害者総合支援法では、要件を満たせば2018年後から介護保険の自己負担が軽減される予定であることから、今後、介護保険サービスの利用も視野に入れ、軽減の対象者になるか、本人にあったサービスはあるかなど情報収集を進めるべきと思われる。

## アンケート調査結果の概要

今回のアンケート調査では、最後に自由記述欄を設けたところ、282名のうち141名と半数もの養護者が何らかの記述を行っている。一人ひとりの養護者の切なる声として、本報告書に全文掲載しているが、内容としては、「グループホームや入所施設の整備」、「兄弟姉妹」、「成年後見」に関するものが多く記述された。

また、平成29年2月23日に開催した子育て家庭・高齢期家庭への支援委員会では、このアンケート調査の単純集計結果をもとに、今後の支援のあり方について、議論を行った。

今回のアンケート調査で改めて明らかとなった養護者のねがいを端的にまとめれば、

「親亡き後も、本人が健康で安心して暮らしていけること」  
である。

そのために、必要なこととしては、

- ・安心できる暮らしの場の確保
- ・本人が不利益を被ることのない財産管理と身上監護
- ・本人の暮らしや健康を支える日常的な支援

などが挙げられる。

まず、安心できる暮らしの場として、アンケートでは、「グループホーム」が切望されているものの、国、県、市町の施設整備補助の採択が狭き門であることやスプリンクラー設置の問題、障がい者に対する地域の理解不足などから整備が進んでおらず、また重度の障がい者が入居できるグループホームはより整備が進まない状況にあり、養護者の将来不安を解消する最重要課題であると考えられる。

また、委員会の場では、短期入所について、緊急時に予約で満床のため対応してもらえず、別の受入先を養護者が探さざるを得なかった事例が報告された。短期入所の新設・増床、緊急一時保護の制度化や緊急ショートステイ床の確保、緊急時のサービス調整の仕組みを確立することで養護者の不安を解消する必要があると考えられる。

次に、財産管理・身上監護について、アンケートでは、成年後見制度の利用をためらうとの自由記述が散見された。専門家後見人への報酬や金銭信託手数料などの経費で本人の財産が目減りしていく問題や悪質な後見人や地域福祉権利擁護事業に従事する職員の着服・横領など課題が多く、養護者の将来不安を払しょくする制度に改善していく必要がある。

また、兄弟姉妹に関して、アンケートでは、親亡き後の本人への支援を期待してはいるものの、兄弟姉妹の生活も大事にしてやりたいという親が主流になってきているように見受けられた。一方、委員会の場では、親亡き後、相続人の間で利益相反が生じ「争族」とならないためにも、遺言をしておく必要があるとの意見が出された。エンディングノートなどを活用し、後見人や本人の日常的な支援をだれに託したいのか養護者のねがいを明確にし、準備を進めることができれば、不安も軽減していくのではと思われる。

当会としては、国や滋賀県にこれら制度の改善要望を行うとともに、各種研修の実施や相談体制のあり方検討を進め、養護者の不安払しょくにつなげていきたい。

表9 自由記述頻出語

グループホーム・GH	59
施設	58
兄	26
弟	23
姉	17
妹	13
親	115
亡き	43
死	14
後見	30
高齢	41
健康	16

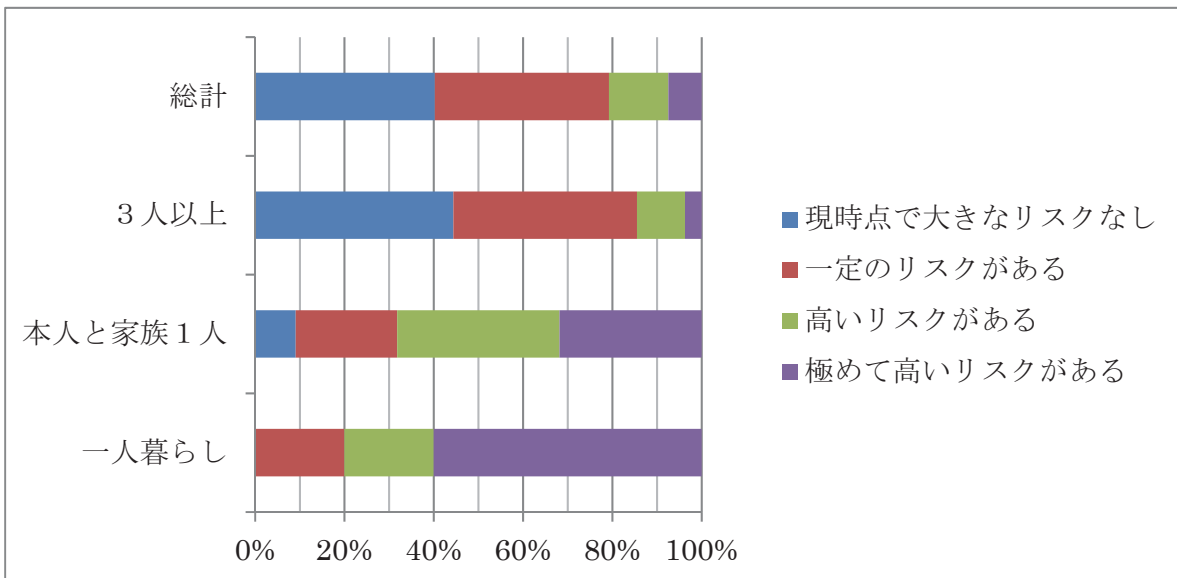
## アンケート調査結果の概要

### 第3節 孤立化のハイリスク要因

表10 本人の世帯構成別ハイリスク世帯数

	現時点で大きな リスクなし	一定の リスクがある	高い リスクがある	極めて高い リスクがある	総計
一人暮らし	0	1	1	3	5
本人と家族1人	2	5	8	7	22
3人以上	95	88	23	8	214
総計	97	94	32	18	241

図9 本人の世帯構成別ハイリスク世帯の割合



本人の世帯構成のうち、「一人暮らし（グループホームなどの共同生活）」を除いた 241 名について、全日本手をつなぐ育成会が作成した「障がいのある人のいる世帯のハイリスク状態を確認するチェックリスト」にあてはめると、241 名中、「高いリスクがある」が 32 名、「極めて高いリスクがある」18 名となり、両者をあわせると 20%に達した。

これを世帯構成別にみると、「現時点で大きなリスクがない」が、「3人以上」では4割を超えるが、「本人と家族1人」では1割未満、「一人暮らし」ではゼロという結果になった。

このチェックリストは、全国から収集した事例をもとに、ハイリスク世帯が①「一人暮らし」、②「一人親+子」、③「家族同居だが全体に弱さがある」の3つに大別できるとし、ハイリスク世帯の中に共通する項目について、相関関係の高い10項目からリスクの度合いを点数計算できるように設計されたものである。今後、アウトリーチによる相談事業を展開するのであれば、その取り掛かりとして、このチェックリストを活用できると思われる。

なお、草津市が実施した「孤立化防止のためのアンケート」の調査結果では、「単に社会的なつながりの有無だけで『孤立化』を判断することはできない」と警鐘が鳴らされている。「養護者のメンタル不調」など、ハイリスク世帯に共通する10項目では測ることのできない個別のハイリスク要因があることも考慮に入れて対応する必要があると考えられる。

## アンケート調査結果

アンケート配布数 : 19市町 546名

アンケート回答者数 : 282人 (51.6%)

### I 養護者の状況

#### 1. 養護者のお住まいは、どこの市町ですか。

1	大津市	60	11	甲賀市	7
2	彦根市	4	12	米原市	1
3	長浜市	75	13	高島市	8
4	近江八幡市	17	14	日野町	5
5	東近江市	15	15	竜王町	7
6	草津市	20	16	愛荘町	3
7	守山市	5	17	豊郷町	3
8	栗東市	15	18	甲良町	0
9	野洲市	25	19	多賀町	8
10	湖南市	3			

#### 2. 主たる養護者の年齢を選んでください。

1	60歳未満	37
2	60歳～69歳	122
3	70歳～79歳	94
4	80歳以上 80歳(1)81歳(4)82歳(5)83歳(2)84歳(1)85歳(2)87歳(1) 88歳(2)89歳(2)90歳(1) 記入なし(7)	28
	記入なし	1

#### 3. 養護者と本人との続柄。

1	父母	250
2	兄弟姉妹	31
3	親族(1,2以外)	3
4	その他	1
	記入なし	2

4. 養護者の状況について、当てはまる番号をすべて選んでください。

1	養護者が要介護認定、または障がい支援区分を受け、要介護・要支援状態である	33
2	養護者が病弱等、心身に不安がある(1以外)	87
3	主たる養護者に上記のような不安はない	155
	記入なし	10

5. 世帯の経済状態(現在の暮らし向き)はいかがですか。

1	ゆとりがある	13
2	普通	224
3	大変苦しい	41
	記入なし	4

6. 養護者は近所づきあい(町内会等の地域活動を含む)はどの程度ありますか。

1	親しくつきあっている	127
2	立ち話をする程度	81
3	あいさつをする程度	74
4	つきあいはほとんどない	12
5	わからない	4
	記入なし	3

7. 養護者には、本人のことについて困ったとき、相談する人がいますか。

1	相談相手がいる	226
2	相談相手がない	32
3	わからない	22
	記入なし	2

8. 相談相手は誰ですか。または誰に相談相手になってほしいですか。(複数回答可)

1	同居人	85
2	親族	108
3	作業所の職員	146
4	友人	81
5	その他 ・行政関係 ・施設 ・相談事業所 ・主治医 ・同じ立場である保護者 他	62
	記入なし	11

9. 7. で相談相手がいると答えた方にお聞きします。

その相談相手は、「この人なら頼れる、話せる」というひとですか。

1 はい	208
2 いいえ	11
3 その他 ・100%頼れる人はいないが、話せて解決に向けて話し合える ・そのように思っているがいざとなるとわからない ・その人に判断できなくても相談できる人を捜してもらう ・相談してアドバイスを受けられるが全面的に頼れることができない 他	16
記入なし	50

10. 養護者は現在、日常生活で困っていることは何でしょうか。(複数回答可)

1 本人の行動に関する事	84
2 本人の能力に関する事	63
3 本人の健康に関する事	124
4 本人の介護に関する事	64
5 本人の将来に関する事	229
6 家族に関する事	47
7 その他 ・家族で会話をして、本人の話をきいて安らかな様に保っている ・2人の障害の子をもっている(知的と精神) 他	7
記入なし	6

11. 養護者は将来、不安に思うことは何でしょうか。(複数回答可)

1 本人の行動に関する事	73
2 本人の能力に関する事	58
3 本人の健康に関する事	158
4 本人の介護に関する事	116
5 本人の将来に関する事	158
6 家族に関する事	67
7 その他 ・自分達の亡き後のことを考えたら支えてやれるものがない。 姉妹はいるが支えてもらえるかわからないし、迷惑をかけたくない ・施設入所後の生活環境の変化に対応できるか、また、施設職員が 本人の意図としていることが理解してもらえるか ・すべてが心配。親亡き後をどう暮らしていくのか 他	7
記入なし	4

12. 養護者が現在、利用している介護サービス（複数回答可）

1	ホームヘルプ	12
2	通所介護(デイサービス)	20
3	通所リハビリ(デイケア)	4
4	訪問入浴	3
5	訪問リハビリ	1
6	訪問看護	2
7	ショートステイ	18
8	利用していない	204
	記入なし	34

13. 現在、養護者自身の事について相談相手はいますか。

1	いる	232
	⇒相談相手は誰ですか	
	①同居人	100
	②親族	109
	③作業所の職員	45
	④友人	57
	⑤その他 ・主治医 ・相談員 ・市の職員 他	17
2	いない	32
	記入なし	18



## II 本人の状況

14. 本人の性別を選んでください。

1 男性	136
2 女性	89
記入なし	58

14. 本人の年齢を選んでください。

1 18歳未満	4
2 18歳～29歳	28
3 30歳～39歳	81
4 40歳～49歳	97
5 50歳～59歳	21
6 60歳～64歳	20
7 65歳以上	18
8 わからない	0
記入なし	13

15. 本人の状況

1 特に見守りが必要	38
2 見守りが必要	151
3 現在は見守りの必要はない	73
記入なし	20

16. 本人の障がい者手帳の有無を選んでください

1 身体障害者手帳	53
2 療育手帳	194
3 精神障害者保健福祉手帳	10
記入なし	29

16. 本人の障がい種別を選んでください。(発達障害は精神障害に含まれます)

1 知的障がいのみ	153
2 知的障がい+身体障がい	47
3 知的障がい+精神障がい	29
4 知的障がい+行動障がい	8
5 知的障がい+精神障がい+行動障がい	7
6 知的障がい+身体障がい+行動障がい	2
記入なし	40

17. 世帯の構成人数は何人ですか。

1	1人(本人のひとり暮らし)	5
2	1人(グループホームなどの共同生活)	27
3	2人(本人+家族等1人)	22
4	3人以上(本人+家族2人以上)	216
	記入なし	14

18. 本人が現在、利用している福祉サービスをすべて選んで下さい。

1	ホームヘルプ	31
2	ショートステイ	75
3	通所(作業所)	130
4	入所	16
5	グループホーム	40
6	日中一時支援事業	55
7	移動支援事業	66
8	成年後見制度	12
9	地域福祉権利擁護事業	4
10	訪問看護	3
11	行動援護	13
12	訪問入浴	4
13	その他(別紙) ・ディサービス ・放課後ディサービス ・体験グループホーム ・グループ支援 他	12
14	利用していない	29
	記入なし	15

19. 本人が現在、利用している介護サービスがあれば選んでください。(複数回答可)

1	ホームヘルプ	15
2	通所介護(ディサービス)	32
3	通所リハビリ(デイケア)	1
4	訪問入浴	2
5	訪問リハビリ	1
6	訪問看護	4
7	ショートステイ	34
8	利用していない	155
	記入なし	62

20. 今後、利用を希望している福祉サービスをすべて選んで下さい。

1	ホームヘルプ	46
2	ショートステイ	83
3	通所（作業所）	137
4	入所	67
5	グループホーム	122
6	日中一時支援事業	74
7	移動支援事業	72
8	成年後見制度	48
9	地域福祉権利擁護事業	21
10	訪問看護	9
11	行動援護	23
12	訪問入浴	5
13	その他 ・グループ支援（野洲市では利用できるが守山市では利用できない） ・どうなるか全然わからない	8
	記入なし	33

21. さらに将来、利用を希望する介護サービスを選んで下さい。

1	ホームヘルプ	68
2	通所介護(デイサービス)	83
3	通所リハビリ(デイケア)	22
4	訪問入浴	17
5	訪問リハビリ	10
6	訪問看護	24
7	ショートステイ	77
8	利用しない	32
	記入なし	94

22. 現在本人は、余暇活動をしていますか。

1	している	128
2	していない	128
	記入なし	26

23. 本人には、趣味やスポーツ、友人との付き合い(会う、手紙や電話のやり取りをする等)が、どの程度ありますか。

1	している	45
2	ときどきしている	61
3	あまりしていない	30
4	していない	127
5	わからない	12
	記入なし	10

24. 本人の現在の健康状態はいかがですか。

1	よい	34
2	まあよい	48
3	普通	144
4	あまりよくない	42
5	よくない	5
6	わからない	2
	記入なし	8

### Ⅲ 以下について、ご自由にお書きください

(例) 成年後見、高齢化、兄弟姉妹のつながり、入所施設問題、手続きでこまってること

県育成会への要望 等

1	親亡き後どうなるのか。グループホームも施設も足りなくなる一方だろうし、それを一人の兄弟の肩に背負わすのかと思うと・・・。
2	親が病気等で養護できない日が来たら、本人の姉たちに頼るのは心苦しいので、いずれはグループホーム等よいところがあればいいと常日頃から考えていますがなかなか簡単には利用できないだろうなと思っています。もっと、そういうグループホーム(家庭的な)が増えてほしいと思います。
3	○成年後見制度:成年後見制度なるがゆえに本人の預金額1200万円超過に対して家庭裁判所より司法書士の指名によって信託預託させられて手続きにほんろうされ、その上事務手数料として何十万円も支払させられた。○高齢化入所施設:入所施設も利用者の高齢化と共に本人介護が必要となって職員の重荷がのしかかってきて、職員採用の確保が今後切実な問題となってきつつあります。この事を国の方に声を大にして雇用の確保と待遇改善につながる助成等をお願いしたい。○入所施設:入所高齢化と共に本人介護が必要となり、施設内の設備又は職員に対して介護指導も必要になってきております。その様な変化に対応できるべく国の方にも働きかけをお願いしたい。特に知的障害者は馴れた場所での生活が安定するからです。これは、医学者の方からも言われております。
4	今後、本人の老後の事が1番心配です。今は、グループホームに在籍していますが定年が60歳です。親が年を取って心配です。
5	養護者も本人も高齢化していく。将来安心させてほしい
6	竜王町では、町・作業所ががんばっておられるので、現在困っていることはあまりない
7	私ももう2年すると60歳になります。本人いずれはグループホームにと思っています。入所先を捜すことも大変ですが、本人の気持ちが現在ではとても無理な状態です。私の元気なうちに今は思っています。
8	○親自体の高齢化に伴う移動手段。本人は整備された道を歩くだけなので、又、金銭の管理ができないので心配である。○兄弟姉妹が親亡き後にどこまでかかわって本人支援をしてくれるのかと考えることが多い。それぞれの家族に生活がある訳なので特にそう思います。
9	一番気になることは、親が亡くなった後の事が心配です。どのような準備をしておけばよいのか、親が年齢いくと…。いつも、他のお母さんと話をしているのですが、親と一緒に(老人と障がい者)入れる施設をつくる事が出来ると良いねと言っています。
10	親亡き後、本当にどうすれば良いのか、選択肢はあるのか、不安なことばかり。本人の精神的な課題をまず第1に解決しないとその先が見えないのが現状です。
11	○成年後見を後見法人に依頼した時の後見料の高額な事があって依頼できません。(月2~3万円と書いています)○特別養護老人ホームがあるが如く、特別養護障害者ホームのような施設があれば親亡き後も大変心強いのですが。○親が居るからこそ本人の普段の生活の細々としたことに注意をすることが出来るが、親亡き後にその世話を誰に頼めばいいのか?(食事・衣服・入浴・散髪・衛生用品の購入など)○グループホームを作りたいが、運営してくれるNPOや社会福祉法人がない。

12	○朝夕の薬をきちんと飲めない。飲んでいないとうそを言う。体調を崩すの繰り返しである。○発作の薬(朝夕)今まででも何回か本人は飲んでいないというので困りものです。今年の10月病院で血液検査で薬を飲んでいないことがあり1週間ぐらい幻想到襲われ、玄関に若女と老女が立っているという状態があり、水口病院に何度か行きました。現在は落ち着いていますが、未だ薬の飲み忘れがあるので不安です。うそも知の内とか言いますが、うそは度々つくので、例えば風呂に入ったとか薬を飲んだとかの返事は、入ったとか飲んだとか。タバコ厳禁の注意を再三注意しても、平和堂中央店に行ったらタバコを吸っているようです。病院からは禁止されているので困っています。
13	今後親も高齢化し兄妹もそれぞれの生活をしていかなければならないので本人の生活が心配。グループホームに入ることになるかもしれないが障害者虐待等の問題が大変心配である。動ける障害者の親(元気な親)がグループホーム等に入る障害者のお世話ができれば虐待などの問題がないと思う。親も生きがいができるし安心である。
14	たくさんの福祉サービスを利用したりボランティアで宿泊の見守りやお世話もしていただけています。大変感謝しています。お蔭で充実した休日を過ごしています。県育成会へのお願いです。障害者教育福祉振興大会の事ですが、必要な大会であると思うのですが、参加者も減ってきているのは、色々な要因があることですが、私なんかは参加することが大変ですし、他の人もそんなことを言われます。毎年開催はやめて、2年とか3年に1回とか半日にするとかできないでしょうか。式典も時間が長くてもっと短くしてほしいと思います。
15	将来的にグループホームが必要となるだろうが、現在通所中の事業所は、今のところその運営に乗り気ではなく不安である。また、それ以前に宿泊体験(訓練)をさせてもらえる場が不足している。少しずつ親亡き後の一人立ちへの訓練をしていきたいが、なかなか進まない。
16	現在は、両親ともに健康なので本人の見守り支援は可能ですが、5年先10年先を考えると不安です。高齢の実母は老健入所しているの、家庭内においても本人は落ち着いた生活ですが、今後、介護度が高くなる実母のことを考えると3ヵ月入所が原則となっている、老健施設という安定しない施設入所にも不安を感じています。兄弟は結婚して自分達の生活を守ることが大切であり、親としてもそれを望むところですが、いつかは兄弟に託さないといけないことになると、どの段階でどのようにハトタッチしていくのか悩むところです。行政的な手続きというより本人の安定した生活の為の見守り支援を(方法を)兄弟がどのように獲得していくのか、手立てがみつかりません。それから、在宅からグループホームへの移行方法についても、本人の障害特性を考えると難しさを感じています。グループホームのバリエーションの広がりを望んでいます。
17	今は、私達と姉弟がいますが、1人になったら心配です。
18	親が元気なうちに、グループホーム等親元から離れた生活の場を確保したい。
19	親の身体が弱かったり亡くなったりした後は、安心して重度な子も生活ができ、楽しく過ごせるグループホーム(少人数)がたくさんできると安心です。大きい施設は、重度な子にとって細かくみてもらえない気がします。
20	養護者が将来、体力、経済的な行きづまりができた時に本人をすぐに施設に入れるかどうか、今はそれが一番不安。
21	わが子はひとりっ子なので、私達が元気なうちに成年後見制度を利用して安心したいのですが、利用料金等がどれ位かかるのかが分からず躊躇しています。
22	養護者が本人を養護できなくなった時に、本人はどう生活していくのだろうか?グループホームがないので早く設立してほしい。その場合も本人も納得し養護者も納得して入居できる場所であってほしい。双方の健康問題が不安。

23	親亡き後の事を考えると不安です。家に兄がいますが、ずっとニートの状態だったので(今少しバイトを始めましたが続くか不安で...)。今後の生活が二人でやっていけるのか等不安に思います。兄が、弟(障害児)の年金を使いこまないかとか、弟をグループホームに入れた方がよいのか等。今は親が余暇の送迎等をしていますが、今後、移動支援を頼んだ方がよいのか等。今は働きにも行けて余暇もそれなりに楽しんでよいですが、両親が亡くなった後の事を考えると不安です。
24	高齢家庭問題については、今はまだ子供が学校へ行っているのですが、実感がわかないのですが、将来すぐ気になる問題となると思っています。そのため、早目に関心を持って情報を得ていきたいと思えます。
25	親亡き後、彼が安心して生活できるグループホームに入所できることを望む。勿論地元のホーム入所が望ましい。しかし、今現在グループホームが圧倒的に少ない。ホームの新設がたくさんほしい!
26	親亡き後、息子をどうやって守っていったらよいか悩んでいます。兄や姉それぞれに生活があり、それを犠牲にしてまでかかわってほしいとは思わないのです。そのための貯金はしておりますが、自分達の老後の老人ホーム代を思うと不足します。作業所がグループホームを作ってくれるといいのですが「作りたい」とは言ってくれるもの一向に心配なく...。漠然とした不安をもちつつ、親の介護と息子の世話に日々追われてしまっています。「手をつなぐ」は購読していますが...。福祉について学ぶ場がなかなか求められない。
27	知的障害者の入所施設、グループホーム等、地域にはまだまだ少なく、将来、私達保護者の亡き後が不安です。親が元気な時に将来の受け入れ先がわかると不安もなくなり安心です。
28	特に今は本人の健康・安全・楽しい生活
29	母子家庭のため、母親が世話ができなくなった時のことが不安。
30	兄姉に助けられ本人はいつも偉そうに使っている。この子の為なら兄姉は一生懸命協力してくれる。先日私(母親)が緊急で入院しても本人はよき日を過ごした。電話をかけた「昼ごはんお弁当がほしい」と希望をし、又、姉が連れて帰り何の心配もなかった。時々私の亡き後のことを言うが取り合わない。皆がお母さんが亡くなった後、皆で相談するそうです。でも、少し心配をしています。親だから見れているところがあり、グループホーム等、私は希望しています。本人はホーリング・ビデオ鑑賞・ゲーム・阪神ファン・動物とのふれあい等多趣味をもっているもので退屈することがない。食べることとお金の使い方だけが心配です。本当に良き子供を持って幸せを感じています。
31	兄弟姉妹がいても、仕事・高齢といろんな事情で面倒がみれなくなると思っています。その時に入所ができればよいのですが。地域で地域で生きると言われても、その手段が見つかりません。自分が終わる前に一緒に考えてしまうのでは...
32	父母が元気なうちはよいが70歳手前になり自身の健康への不安、娘の先々の事を思うと不安。
33	親亡き後お世話になると思いますが、よろしく願います。今のところは、作業所の先生はじめ市の福祉課のお世話で安心していますが、親亡き後引き続きよろしく願います。
34	各公的な事業所との連携がとれていないような気がします。通所していても相談できない空気が出ています。県育成会へ相談しなくては(したい)と思えます。
35	親が元気なうちに、家で介護を頑張りたいと思っているが、どうしても出来なくなった時とか親亡き後入所施設を希望したいがなかなか空きがないようで不安です。

36	<p>○成年後見:研修会には何度も参加し最終的には利用することに決め書類をすべて揃え裁判所に予約日を申し込むだけになりました。ところが、一度成年後見を利用すると、途中でやめることが出来ない事を知りました。成年後見人になってくれた人に何かあれば又次の人を捜さなければなりません。裁判所の方で捜してくれるそうですが、想定外の多くの人申し込みがあり、悲鳴をあげる程だとテレビや新聞で知りました。高齢化が進むと共に家族関係が希薄となればなるほど、ずっと続けて利用するのは困難だと思ふようになり、途中で諦めました。自分達が死亡した後は、本人の兄に頼むしか仕方がないかという思いに至りました。何所に頼むのも不安で、なるようにしかならないかと思いました。○高齢化:養護者も障害者も高齢となり、健康に対する不安が強くなりました。現在は、通所(作業所)とグループホームを利用しています。体調が悪くなれば迎えに行き(両方ともに)受診し状況によっては家に連れて帰ります。当然の事と思ひ何の疑問も抱いていませんが、養護者が死亡するなり、介護が必要となった場合はどうなるんだろうか。合併症を持った人も増えてくることを考えれば、将来的には、部分的な看護師と連携を取り合えるようにしたり、訪問看護ステーション(開業医と連携しているステーション)なども利用する方法を考えなければならない時代になるかもと考えています。○グループホーム:現在7人のグループホームだが、高齢になり(70歳以上~)介護が必要になったらヘルパーやキーパーさんの人員配置が今のままでは到底無理だろうと考えると、制度の改革に期待するしかないだろうか。*何とかかなと思うのではなくもっと多くの人意識をもち、会員になってくれることを望みます。</p>
37	<p>施設入所者の重度化に伴う、職員の増員や待遇の改善が必要であり、県育成会から国へ要望してほしい。</p>
38	<p>現在びわこ学園に入所中であり、3週間に1回2泊3日の外泊で帰ってきている。親も本人も楽しみにしている。両親(私達)も高齢であり、何時まで帰省させてやれるか心配している。後は、本人の妹に依頼しているが、親のように面倒がみられない。成年後見制度も必要性は痛感するが、今は利用する予定はない。</p>
39	<p>○成年後見制度:何回か話をきいたが、今のところどうしても即手続きしようとは思わない。費用、実際に世の中でおきている不具合など…。○高齢化:当面はいいとして、あまり遠くない先に本人(養護者)が動けなくなる可能性が高い。例えば、時々車で温泉などに行くが、これがあと何年できるか。</p>
40	<p>親が亡くなった後、本人の生活に大いに不安あり。本人の財産管理も含めどうしていくか、親の存命中に決めなければならない。本人も親も高齢化が進みますが、言葉で将来の事をうまく話せないで、本人はどう思っているかわかりませんが、本人が親亡き後も死を迎えるまで安心して暮らせる日々が送れるように願うのみです。</p>
41	<p>草津市に体験型グループホームが欲しい。将来は、グループホームでの生活を考えているが生活費が心配。又、資金を出し合ってグループホームを作る上で、まだ具体的にどういう行動を起こしたらよいかつかめない。年を取っても心豊かに過ごせるような色々なつながりを持ってほしい。</p>
42	<p>親子一緒に入所できる施設があると良いですね</p>
43	<p>親亡き後の問題:入所施設に入ることが出来れば安心ですが、いつも満杯の状態。国は地域へと言いますが地域での受け入れはすべてと言っている程よい状態とは言えません。障がい者を抱える親同士の会話は「子供を見送ってから一日でも後で自分が死を迎えることが出来たら幸せ」これが本音です。こんな事で良いのでしょうか?「子供と一緒に入れる施設」ができないものか。あるいは、「住み慣れた自分の家で障がいのある我が子と一緒に色々な支援やサービスを受けながら生活できれば幸せかな」と夢を見ている今日この頃です。夢ではなく実現してほしい。</p>
44	<p>本人(女)と夫婦三人暮らしで母親(身体障害1級)。現在は何とかうまく回っていますが、1人が崩れると(△三角形)成り立たない状態になると思っています。その時どういう風にしていったらいいのかが現在不安です</p>
45	<p>グループホーム検討の要望。送迎等の支援の検討の要望。</p>



46	親が子供の介護ができなくなった時(そうなるより少し前に)重度障害の子供を安心してお願いできる生活の場が是非とも必要です。草津市内にショートステイできる施設が必要です。(重度障害者は、蛍の里かガルしかありません)
47	人とのかわりが難しくトラブルを再々おこす。入所できるところがないので悩んでいる。養護者が精神不安定になりそうです。
48	重度なのでケアホームを希望している。適当な施設がない。運営が大変そうなので行政が運営した形にすれば職員の身分保証も高く、良い人材が得られるのでは…。親も高齢となり今すぐにもホームが欲しい。入所施設の方が安心できるのではと思うのですが入所も満杯で余裕がないと聞きます。小規模入所施設の方が目が行き届くのではと思いますが入所施設でも形態を工夫すれば一人一人に目配りできるのではないかと期待しています。介護サービスに問題点もあるようで不安です。
49	相続について心配している
50	養護者79歳。通院も整形外科・内科(高血圧高脂血症等)・歯科・眼科としていて、本人の通院・投薬管理が精一杯です。本人の通院や健康管理等だんだんしんどくなってきています。常に投薬が必要。
51	月～金は、グループホーム。土～日は、自宅。成年後見制度。両親亡き後の入所施設問題。
52	養護者の加齢の伴いできないことが多くなると思う。自分たちが動ける時点において、してやるべき事、又はするべきことをしなければいけない。そのために何をどうすればよいか具体的に学習する時間がほしい。
53	姉妹にも家庭があるので今後どこまでみてもらえるかわからない。自身も高齢なので今後の事は不安に思うこともある。今は、姉と良い関係でいるが、本人は末っ子で年が離れており、姉が高齢になった時は…。
54	成年後見制度を選ばなくてはならなく、どのようにして選べばよいか心配しています。
55	養護者の高齢化で、もしもの時、入所施設が利用できるのか？
56	本人の姉妹が遠くに嫁いでいるので、成年後見するか迷っている。信用できない(今の気持ち)。ホームに入所させたいが、本人に病気が多く三か所も通院させているので、預けにくい(薬による副作用もでるし…)。主人が亡くなり2年。自分も高齢になってきて心の休まる日がない。今は元気だがいつまで気を張って生活していけるか心配です。
57	本人をみている親の健康。そして、本人がすごく日によってイラつくので、薬を使用しているが、怖いと思う時がある。その時は、薬を使用して落ち着くとほっとします。できる限りストレスをためない工夫をしていますが、何をいら立っているのかわからない事がある。こだわりがあって、外に掃除に行くが、警報が出ていても知らん顔。無事帰ってきてほっとします。助けて!と言いたいぐらいです。ひとり外へ出て帰ってきますが、いじめにあわないかと絶えず心配です。99歳のおばあさん、実家の父88歳ひとり暮らし、母88歳施設です。全員みえています。
58	現在夫66歳私62歳。父母として自閉症の息子を抱えています。数年前までは、親の介護で先のことを考える余裕もなく気づくと夫婦とも60代になっていました。作業所のお蔭で息子ともどもが穏やかに毎日を過ごしている現在ですが、今のうちに10年後20年後に備えて子供の将来を考えなければとひしひしと感じるこの頃です。制度の変わり方は本当に激しく国はもう入所施設を増やさないとのことですが、GHが対応できているかと言えばお寒い限りではないでしょうか。何より、これからの見通しがつかず、親も今のうちにすべきことは何なのかを悩んでいます。
59	現在の良い状態がいつまで続けられるかが不安です。

60	<p>&lt;日頃心がけている事&gt;知的障害(自閉症)とは言え、個々によって千差万別であることは会のみんなが認識していることだと思う。これは、育成会に属し、情報(生活その他)を共有すれば知りえた結果であろう。追々、わが子とほかの子との違いをみてしまう愚かさを痛感することもしばしばである。親としてできること、漢字の成り立ちをみて思うこと、親の字&lt;木の上に立ち、見守る&gt;これが親の立場かもしれない。知的障害とは言え、いつまでも親が子に代わってすべてのことに対応できる訳ではない。私が生活の中で心がけていること。これは、①栄養②運動③生活に根づく習慣付け④知恵の取得(会話、金の計算、生活のルール)など⑤危機意識を持たせること(親が居なくても自分がどうするか)。①栄養について、バランスのとれた食事は勿論のこと、それに加えてDHA・EPAのサプリを毎回食事に追加すること、10年間継続しなければ結果は出ない。それと牛乳(カルシウム補給)も欠かせない、効果は少しずつ出ている気がする。④の知恵の取得—これについて、興味・関心と結びついたものにするため、テレビの副音声に言葉表記されるため、テレビを最大の教材にしている。④知恵の取得—特に金銭管理について、細かく領収書を揃えることわしない。千円単位で小い方を覚えることは当たり前かもしれないが、大事なことだと思う。&lt;成年後見について&gt;成年後見について、必要な制度でありそのコストも月当たり2万円、年間24万円相当で、後見人と契約できるようになって来た。但し、成年後見制度は、財産管理と身上監護であり、見守りが欠如している。知的障がい者単独で、自己の健康を維持できるはずがない。病気になって具合が悪くひとりで対応できない。親亡き後の健康管理には限界があり、健康な間でも、グループホームの生活の中で定期的健康診断と医療同意の問題が残る。ほかに色々、述べたいけれどこの辺で終わりにします。</p>
61	<p>○現在、本人も養護者も特に大きな病気をしている訳ではないのですが、将来のことを思うととても不安です。養護することができなくなった時に入所施設が充分でない(ショートステイも現在希望しているが受け入れ先がいっぱいでこれも不可能)○福祉サービスの内容が複雑で又制度も次々と変わっていくのでなかなか対応できないし、理解しないまま(できないまま)手続きが進んでいく。分かりやすい勉強会・研修会を望みます。</p>
62	<p>精神障害というのは、本当に大変。いつも振り回されています。本人も「私の障害は簡単なものではない」と言います。これ以上家族では限界!施設に入れてほしい。</p>
63	<p>グループホーム建設も決定し、将来的にも心配ないのですが、キーパーさんの不足。本人の健康。本人がグループホームを希望していない等問題が多くあります。家族はどうしたら本人の自立のサポートを本人の希望に寄り添ってできるか、頭の痛い問題です。国の制度もどんどん変わっていく中で、私達に何ができるのか。育成会活動はどうしたらいいのか。よろしくご指導ください。</p>
64	<p>年を重ねるにつれ双方とも生きていく目標がしっかり定まるよう。自分達の将来に道筋が現在めまぐるしく変化するにつれ判断しづらい。解決しない事も積もる一方、遠い将来でなく近い将来に近づきますよう個々が力を合わせて取り組める事より歩んでいきたいものです。安心して住んでいける場所が選べるようになるといいなあ—(もちろんそれぞれの範囲は限定されるかも)そんな夢にゆれます。</p>
65	<p>親自身が高齢化で本人の世話ができなくなることが最大の不安。GHの増設に作業所職員さんと力を尽くしているが金銭面も含めて課題が大きすぎます。親亡き後の言葉が切実に身にしみます。親の力を結集して市政・県政に声を届けることが本当に大切だと実感しています。高等部を卒業されやれやれ…の若い会員さん達や働く作業所作りに経験のない保護者の皆さんに「我が子に歩む道を自ら作り出す心構えをしっかりと話し伝える」立場の我が身をかみしめています。引き続き先輩の親として若い保護者の皆さんに語りかけ我が子の将来のために頑張ることを伝えてまいります。県育成会崎山理事長をはじめ皆様からのご指導の程よろしくお願いいたします。</p>
66	<p>いずれは施設への入所が必要になるので、受け入れてもらえる場所があるか心配している。安心して暮らせる所があるように思っている。</p>
67	<p>兄弟のつながりで本人の弟とのつながりがあまり(全然)なくて、親として気がかりです。</p>
68	<p>今のところ自力で行動できているが、交通機関が大変不便なので将来に不安が何かと多い。グループホーム等増えたらと願います。</p>

69	○成年後見制度を考えているが、個人では利用料金が高額になり、中々踏み込めないでいます。グループ単位(作業所等)での利用が可能になるとありがたいですが。○将来(近い内)グループホームを考えているが、キーパーさんの不足等で折角立ち上げても利用回数が少ないので難しい。
70	親の自分達の健康が病気で大変だと思っています。些細な事から大きなことまで考えたら悲しくなりますが、グループホームに入所させてもらっており嬉しい限りです。本人の病気ですごく波があり色々大変だと思います。
71	ここ2年位前から毎日の生活で自分の受け持つ作業ができなくなり、単純な会話も理解できなくなってきました。何度も繰り返し説明しても全く話の内容が通じなくて困っています。それなりに世話がかかるのに本人の介護保険は毎月引かれています。おかしな話でどうすればいいのか…?
72	近所に住む姉です。現在養護者は母です。高齢になり、自動車運転もやめました。現在は、病院通いや用事は私が送迎、付添をしています。仕事もあり、ままならないことも多いです。将来、母が養護できなくなった時、本人に介護はいらなくても、1人で家に居させておくことには不安があります。私も養護できなくなれば施設でお世話になりたいのですが…。ひとりでは食事の支度もできませんので…。不安な事ばかりです。
73	旧伊香郡の4つの町に2つ目のグループホーム(女性棟始めて)ができることになりましたが、私達の枠は「3名」です。当面、30名くらいが入れるよう力を貸して下さい。
74	本人の両親が今病気持ちで入退院を繰り返しているので、母親が病院へ入ると本人の生活を見守ってくれる人がいないので、どこかへ入れたいのですが本人が動いてくれない。
75	グループホームにいられなくなった場合は(作業所で労働できなくなった場合)老人ホームへの入所を希望したい(高額では無理)
76	今はグループホームでお世話になっていますが、今後高齢で3ヶ月ほど入院などした場合、現在のGHから出なければならぬ。そうなった場合の先が不安になる。
77	手帳は、精神障害のみ。等級が2級から3級になって、年金が止められてしまいました。現在再度申請中です。月に1~2万円の給料しかないのに、これから先どのように生きていったらいいのかが心配です。就職して収入が得られた訳でもないのに、等級が変えられてしまうのはどうでしょうか。
78	入所施設が老朽化している。
79	親の介護と姉の支援で結構大変です。姉の行動が落ち着いている時はいいのですが様子がおかしい時はお手上げ状態になることもあり不安です。私の体も不安であり本当に不安です。
80	本人の父親が平成18年に倒れて寝たつきりになり施設に入所しており、11年目になります。私母親と2人暮らし、兄妹はおりますが、別世帯。私も年がいき体全体が弱ってくるし、今までよりは仕事ももどかしくなって参りました。本人の将来を考えると不安です。私が車に乗れないので色々行事をして下さっても参加する事ができません。手をつなぐ育成会の皆さまには今後ともお世話になると思いますがよろしくお願いします。
81	養護者が高齢で入院中であり実質の世話は、同居している本人の妹がしている。本人も本人の妹も高齢となっていく上で将来健康上何かがあった時(二人に)本人の世話がちゃんとしていけるのが不安です。気軽に相談したり利用したりできる機関や施設が近くにあることを望みます。

82	育成会も以前は端役をもらい、近い存在としていましたが、この頃は、本人も移動が難しくなり、家族も高齢化して参加がだんだん少なくなってきました。また、市町村の合併により広範囲になっていよいよ参加をためらってしまいます。
83	このアンケートは、私には難しすぎました。
84	本人および私の健康が心配だし、それに生活するお金など心配ごとが山ほどあります。精神障害と身体障害のサービスの差があり、もっと精神障害のほうにもサービスが行われるようにと思います。
85	成年後見制度を利用したいのですが、手続きが難しい。本当に安心できるのか非常に心配。利用料が高額。
86	障がい者用のアパート等があれば安価で利用させ、自立させたい。(ヘルパーに甘えてしまっているから)
87	将来、作業所で仕事をするのを望んでいますが、現在高齢の方がたくさん入っておられるということで、将来の就労に不安を感じています。今の実態も知りたいし、今後どうなるのかも知りたいです。
88	親亡き後をどうするか。本人は、ホーム、施設をいやと言う(家での生活は無理)弟妹には迷惑をかけたくない。
89	入所施設問題 ⇒指導員さんとの同居をしてもらえるところ
90	職員が2年単位移動されるので、大変不安に思っています。
91	本人の希望もあり同居。両親も元気ですので今のところはいいですが、将来親自身がもっと高齢になった場合、本人がてんかん性発作があり施設への入所が可能になるよう望んでいます。なかなか、色々な話を聴きますと難しい状況にありそうですが、何とか、親亡き後も本人の居場所がかなえられるように望みます。
92	湖北タウンホームにお世話になっています
93	私達両親が高齢になってきて、先々自分が思うように体が動けなくなって来た時の為に、グループホームを私たちの生活圏内にたてただけだと願っています。
94	親亡き後のことが大変心配しています。安心して過ごせる場所が(本人)あればよろしくお願いします。
95	両親が亡き後の生活問題
96	施設入所の前に月に一度くらい宿泊させたい。グループホームの体験をさせたい。成年後見制度を考えている。
97	親も73歳になり子供たちの面倒が何時までみられるか?一番の心配です。家から毎日作業所に、通っていますが私が病気にでもなったら一人でこの家でやっていたらいいか。本人はグループホーム等に行かずにこの家で暮らしたい気持ちですが、今一番心配しているのはお金の使い方(管理)が自分でできない事。地域の中ではお寺を新築されて一戸当たりたくさんの割当があります。皆さん事情は知って下さっていますが本人は自覚がありません。私としては親が早くに亡くなってこの門徒の中で一生生活していきたい。自分にできることはしていきたい。地域、自分、本人の間で苦しんでいます。本人もそれなりに頑張り私もそれなりに頑張り味方になってくれる人がいてくれること、とても幸せに思います。感謝して暮らしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

98	親が本人に介護ができなくなってきたので、すごく不安です。本人が、親が体の悪いのもわからないので、本人にわかってもらうことの難しさ。親は死なないと思っているようです。以前、本人は「死ぬときは一緒やなあ」と言ったことがあります。すぐには言葉が出ませんでした。いつまでも元気でいたいです。親が高齢になってきた今、いくら考えても答えが出ず日々悩んでいます。
99	両親の内どちらかが病気や死亡の時に、自分ひとりでどこまで本人の生活ができるか？自分(母)が残った時自分も身体障害3級でどうすれば良いか？未知です。
100	親亡き後、グループホームなど子供が生活していける場所を確保できるかどうか不安。大きな入所施設より小さな所を希望するが…はたして？
101	将来の重身対応の入所施設が地域になくて困っています。本人がこれまで多くの人々にお世話になり31歳と言う人生を生きてこれたことは本当に奇跡と思っています。でも、今現在そういう環境にはなく生きていくことが難しい環境にいます。この娘の人生をいかに支援していくことができるのか！人の命の尊さを今一度考えてくれる方々と出会うことが出来たらと思っています。娘は今生きています！○障害者差別の解消に関する条例を大津でもすすめて下さい。何歳になっても障壁は解消されず、関わる職員さんの理解も大切なことの一つと思います。思いを共有していくことが出来ない事が一番の生きにくさにつながっていると思います。
102	入所施設、グループホーム等を増やしてほしい。親の年令もあり毎日心配しています。
103	現在家族5人暮らし。本人67歳。昼は作業所へ通い毎週金曜日夜から日曜日夕方までショートステイでお世話になっています。でも、体力・能力等の低下により作業所もこの先長く通えない状態。養護者(母親)も87歳と高齢になり、入浴介護・服を着る世話等負担が多く体力的に無理な時が多々ある状態。同居中の娘(本人の娘)夫婦も自営(介護タクシー)の運転と近所に住む孫の世話(母子家庭の為)等、多忙を極めて、世話を手伝ってもらえない状態。特別老人ホームへも2か所申込をしていますが入所の見込み立たず。どちらが先に倒れるかと心配ばかりです。現在の社会状況では無理も言えませんが何とか良い方法があれば…と思っています。
104	問20の9. 地域福祉権利擁護事業 11. 行動援護の内容がわからない
105	親が子供の世話をできなくなった時、どうなるのか不安です。子供にあった入所施設に入れるだろうかとも思います。
106	通所施設の職員が本人の高齢化に対し、知識・経験がないのではないかと考えられます。本人の高齢化にどのような対応がされるかが心配です。
107	手続きの簡素化を希望します。障害者や高齢者に対応できるように入所施設の増設をお願いします。
108	湖西方面は全然ないようなので心配しています。大人になって大人たちとの交流も考えてグループホームに入って若い人達の中で過ごさせてやりたい。その中で生活して学ぶことが多いと思う。親にしてもらうだけでなく、自分のことは自分でできないながらもやれるようになってほしい。スポーツはやっているが、付き合いはできていない。
109	将来の入所施設が心配です。
110	父親が後期高齢者、母親が70歳。いつまでも親の身体が持つか。早急にグループホーム・入所等の手続きがしたい。
111	入所施設が少なく、入所できるようにしてほしい。

112	高齢になり、日々の介護がきつくなっています。入浴サービスは受けていますが「何か大変な事ありますか?」と聞かれても24時間が大変で、目と神経を絶えず配らないとダメなので、親の息抜きが必要と思ってもできません。ふと、余計な事を考えてしまうこともあって、そんな自分が怖いです。
113	養護人が亡くなった後の姉妹との関わり
114	親亡き後、入所施設かグループホームを希望していますが、申し込んでもなかなか返事がないです。親が少しでも元気なうちに成年後見他も済ませたいと思っています。本人も持病があるので、どちらが先かできれば一緒にいきたいです。
115	一人っ子なので親が高齢になったり死亡した後の事(入所・グループホーム・シェアハウス)が心配・不安です。
116	重度(肢体)の入所施設を大津に欲しい。
117	本人は兄と仲良く仕事も頑張っていっていますが、首ヘルニアと診断されても医者に行かずリハビリもせず休みもなく働き続けているので心配しています。とにかく仕事仕事仕事で、絶対おかしいやろと思う程働いています。正社員でいるのは大変ありがたいのですがいつまで続けられるか不安でいっぱいです。
118	両親亡き後の生活面での問題。グループホーム等に入所出きるかどうか。又本人の高齢化に従い医療面での問題。
119	親の死後および介護ができなくなった場合に思うような入所施設へスムーズにはいれるかどうか?内容に該当するかわかりませんが、市福祉課より送ってくるサービス支援の手続き書類が毎年誕生日と切替月に2回送ってきて受給者証も2回送ってきて、同じことを当たり前のようにされるが、無駄にもなりもったいないし、福祉課は外にする事があるのではないかといつも思っています。
120	成年後見制度は2年位より利用しています。今のままなら何も心配はないのですが、養護者が高齢のため死亡後本人の面倒をみてくれる人がまだ定かではないので心配です。本人の希望に合ったグループホームが見つかればと日々思っています。兄弟がいらない一人っ子ですので心配です。対人関係の余り良くない子なので大変心配です。
121	親が元気なうちは、家で生活したいという本人の希望をかなえることが出来ているが無理になった場合、どうしてやればよいか不安である。兄弟と言えどそれぞれの生活があったり全てを委ねる訳にもいかず適当な入所施設も見当たらない。
122	余暇活動として障害のある人が何時でも立ち寄れる集まれる「サロン」のような場所が欲しい。日の長い、春・夏の帰宅後の時間、GW、盆休み、正月休み等休みの長い時などに本人も親も安心して立ち寄れるところが是非欲しい。生活施設がない状態で介護者がいつまで一緒に暮らせるか?介護者自身が先に倒れるのは目に見えている現状がある。育成会が軸になって小規模でも生活の場を作ってもらえないのか?切実な問題です。協力は惜しみません。
123	成年後見制度について、二三のところに話を聴きに行ったがかなりお金をとられる。親亡き後は、実妹が家族で帰って同居してくれることになっている(これはあくまでも予定)
124	通っている作業所の法人で将来ひとりになった時は賃貸の家をグループホームにして生活の面倒をみると言ってもらっていたが消防法(スプリンクラー等の設置)の壁に阻まれホーム設置は絶望的です。育成会では国に県にどのように要望されているのでしょうか。又、いくら相談相手があっても本人の状況、国の背策の問題で解決しません。将来の不安は増すばかりです。母一人娘一人。母が亡くなったらどうなるのでしょうか。

125	①両親(養護者)亡き後の生活基盤(物理的)②健康管理をどうするか③以上を含めた入所施設問題④県育成会の相談窓口は(担当部署)の設定。イいつ、どの部署に尋ねたらよいか?ロ)その手続き、提出書類(必要なら)は?
126	作業所は北の方であって大津市に住んでいますが親も80歳を超えて病弱です。県内で入所しながら今の作業所に通所させてほしいと思います。(ちなみに今通所している作業所には来年30年になります)よろしく願います。
127	成年後見人は余儀なく必要としております。成年後見人の実態について情報が不安な事象が聞かされて決めかねております。公的に保証され事業者の実態についての情報を詳しく発信されたい。私の場合は本人には兄弟(長男)が居り、長男も自分の生活の状況からグループホーム・介護施設の生活を考え自分も主体に考えるが本人の代わりに管理のための後見人を立てたい。親としても兄弟共に後見人の設定の検討を考えようと思っている。後見人の設定上の安心度が課題となっています。
128	養護者が間もなく70歳を迎えるので本人を独立させたいがグループホーム等の入所施設があまりない。兄弟の負担にはしたくないので、今後グループホーム・ヘルパー・キーパー等の育成・養成・レベルアップを期待したい。
129	65歳以上の要支援者にケアマネジャーがついていて下さると同じ様に障害者にもそういう人(作業所等に行っている間は職員さんでも)がいてくれ、介護サービス・体験等アドバイス戴きながら本人に一番適した生き方ができたらと思います。ケア会議等に、兄弟参加も促されれば自然に兄弟も本人の家以外の様子等を知ることが出来るのではないかと思います。
130	成年後見制度について、兄弟姉妹がいれば無理かなとか親が認知症になっては手続きもできないと思うと今になってあたふたしている。本人をみていると年齢と共に動作も鈍く読み書きも少なくなり季節の変わり目の服の調整も難しく悩む。病気の時に自分の状態を話せず親が感じて説明する。役所からの手紙は手続きが大変面倒。
131	親が元気な間はホームヘルプ・ショートステイ・作業所へ通所して暮らしていけるが、介護できない状況になった時入所施設・グループホームでお世話になるしかない。しかし、現状では新しい施設もグループホームも作れない。将来の見通しが持てず不安である。大津市の支える会でも、アンケートを実施したが親亡き後の不安を抱えている問題が浮上してきた。明るい将来の為に皆で運動していく道はないものでしょうか?例えば小規模入所施設を建設してほしい。地域で暮らす人を支えるため大津市に何力所かのコールセンターを作ってほしい。グループホームにスプリンクラー設置等の消防法を適用するのではなく一般住宅と同じ扱いにしてほしい。
132	もう少し国に働きかけられないのか?年々暮らしにくくなっています。
133	本人は重度知的障害者で言葉で会話することはできません。親や作業所の職員さんの指示は、理解しているようですがあまり知らない人からの指示は知らないふりをします。トイレを使うとき、たくさんのおしり紙を出しすぎてたまたまにトイレを詰まらせる時があります。今は親がトイレの始末をし水が流れるように作業しますが、その都度注意しても気分によっては、たくさんのおしり紙を出して困っています。生理時にも生理用パットの当て方を何度も教えていますが自分流に当てて生理ショーツを汚します。生理の多い日は特に気をつけて当て方を教えて確認しています。日常生活において本人流のやり方やルールがあるみたいです。食べ物や衣服にこだわりがあり、良かれと言ったり、思ったりしても聴いてくれない事が多々あります。親にも老化現象が身体のおちこちに出てきています。一日でも長くケアしてあげたいのですが最近では自信がありません。親が死ぬまでに子供の面倒を見ることが出来なくなってきたら障害が重いので将来は施設入所、それとも小規模入所を頼っていますが無理かもしれませんね。どうなっていくのかとても不安です。
134	弟夫婦と孫(2人)と同居しているが、通所(作業所)を退職した後どうするか?グループホームや通所で遊べる場所があればよい。

135	アンケートのとおり将来の希望ですが、それを思う前に今の社会、将来の社会がどんな方向に行くのか見通しが立ちません。福祉に携わっていただける職員の人手不足、信頼できる方に支えてもらえるか人間関係に不安をもちます。
136	親亡き後の問題。入所施設なくホーム不足。1人では暮らせない。他の兄弟に迷惑をかけたくないし、とても心配です。
137	父70歳身障3級。母69歳要支援2。現在は金沢大学での自閉の治験に参加して、その結果がいい状態に変わったので、今は海外より個人輸入して使っている(薬代は月15,000円ほど)。その薬を使用するようになって、イライラ感もなくなり作業所でも穏やかに過ごしているとのことで、一緒に暮らしていても何も問題ない。しかし、高齢になる親がいつまでもこういう状態でみていけるのかは常に心配です。特にグループホームは防火基準が厳しくなり、簡単に増やしていけそうもない。空家は増えているのに防火基準はクリアできず何とかならぬものかと思う。県育成会からも国の方へ働きかけてほしいです。防火対策の不備で子供が火災にあうことがあるかも知れないが、親が死亡することは間違いなく100%です。その時安心して預けられるグループホームが津市内(県外では兄弟が何かと不便)にできて欲しい。よろしくお願いします。